

第一問

(五)	間	こ	時	を	え	世	(四)	(三)	(二)	(一)
a	の	と	的	左	ぬ	界	<p>顔が、仮面によって自分にも見えぬ固定した像として他者に示されること。</p> <p>人格の表れとして他者に認知されるが、自ら確認できないまま常に変化すること。</p> <p>信念を脱した今日でも、仮面は芸能や遊戯などの場面で使われていること。</p> <p>仮面をかぶった者に神霊が依り憑くことで、その力を活かせるという宗教的</p> <p>地域や民族、時代の違いを超えた人間の本性を探る手がかりとなろうということ。</p> <p>多様な仮面の文化に見られる類似した慣習や信念を考察することとは、</p>	<p>狩</p> <p>獵</p>	<p>b</p> <p>遂</p>	<p>c</p> <p>衝</p> <p>撃</p>
	根	で	に	右	ま	を				
	源	世	せ	し	ま	改				
	的	界	よ	な	人	変				
	な	や		が	格	す				
	思	自	仮	ら	を	る				
	考	己	面	人	表	か				
	や	を	に	間	可	を				
	行	変	よ	に	顔	持				
	動	え		は	の	つ				
	が	よ	て	不	よ	異				
	う	う	可	可	う	界				
	か	と	視	知	に	や				
	が	す	化	な						
	え	る	し	も	人	自				
	る	点	制	の	間	分				
	こ	に	御	を	の	に				
	と		す		存	は				
	人		る	一	在	見				

第二問

(五)	(四)	(三)	(二)	(一)		
耳を売った僧が、より多くの布施を求め、欲深い became たということ。	神主の妻子は、神主を死なせた僧にかえり、あれこれ申しようもなく	酒好きを隠して、信仰が厚い高僧らしく見せたかったから。	大般若經の読誦による祈禱も逆務もどちらも得意としていることである	ア	イ	ウ
				くじやない。あなたの耳を買おう	耳にだけは幸運の相がおありになるが、そのほかには見えない	私に代わって、お出向きくださいよ



第四問

(四)	(三)	(二)	(一)
<p>自他の差異を自覚することは、他者との関係性の構築につながるということ。</p>	<p>言葉は個々の具体的な経験にもとづくものであり、一つひとつの言葉を介して</p>	<p>言葉は、深く理解されないうまま自明のものとして受容されやすいということ。</p>	<p>個々の具体的な経験と切り離され、全体的で抽象的な理念・枠組みとなった</p>
	<p>に公認されたものとして正当化し、差異を認めない偏狭な考えに陥ってしまうこと。</p>	<p>社会で流通する言葉をうのみにせず、自己の具体的な経験のなかで言</p>	<p>葉と出会い、その経験を各自固有の方法で言語化していく主體的な姿勢。</p>
<p>敵か味方かという区別をもとに、味方のみ通用する抽象的な言葉を社会</p>	<p>に公認されたものとして正当化し、差異を認めない偏狭な考えに陥ってしまうこと。</p>	<p>葉と出会い、その経験を各自固有の方法で言語化していく主體的な姿勢。</p>	<p>言葉は、深く理解されないうまま自明のものとして受容されやすいということ。</p>
<p>言葉は個々の具体的な経験にもとづくものであり、一つひとつの言葉を介して</p>	<p>に公認されたものとして正当化し、差異を認めない偏狭な考えに陥ってしまうこと。</p>	<p>社会で流通する言葉をうのみにせず、自己の具体的な経験のなかで言</p>	<p>葉と出会い、その経験を各自固有の方法で言語化していく主體的な姿勢。</p>
<p>自他の差異を自覚することは、他者との関係性の構築につながるということ。</p>	<p>言葉は個々の具体的な経験にもとづくものであり、一つひとつの言葉を介して</p>	<p>言葉は、深く理解されないうまま自明のものとして受容されやすいということ。</p>	<p>個々の具体的な経験と切り離され、全体的で抽象的な理念・枠組みとなった</p>